



闘争委員会情報

2007年8月22日
第2号

JR東海労新幹線地本

ユニオンニュース号外の嘘っぱち！？

批判はなぜか謙虚な要望に・・・？

7月30日付けのユニオンニュース号外では、第15回定期大会の代議員発言などが【主な意見と要望】として紹介されている。実際にその内容をみると「謙虚な意見と要望といった発言が殆んどである。

しかし労働雑誌アクセスで紹介されているJR東海ユニオン記事では、会社制度に対する痛烈な批判が掲載されている。この違いは何なのだろうか？以下、雑誌アクセス側の掲載を一部紹介します。

ACCESS

▼職場全体が要員不足に悩んでいる。お客様に迷惑を掛けないよう賢明に取り組んでいる。業研をやらないとは言わないが、適正要員が配置されるまでは、減らすから安全のため頑張ってくれませんか。(名古屋)



※モチベーションを維持し、安全確保を確立するにあたって、ゆとりを保持した業務改善を行うべく早期に解決を。

▼十九年度要員計画で、新幹線の運輸系統の休日出勤が前年度より増加した。休日出勤解消に向けて本部・地本が連携して会社と議論した経過からして、組合員の意識を逆なでする提案だ。(関西)



見当たらない？

▼今春の昇進では大卒と高卒で合格者の格差が著しく、「公平感とは程遠い」「納得感が低下した」との不平や不満が数多く寄せられている。納得できる評価がされないのに成果を上げようとする人はいないし、一握りの人が恩恵を受け、多くに社員が頭打ちなる仕組み、それが不満につながっている。使いたやすい特定の社員に負荷を掛ける、会社の言うことを聞いていれば目をかけられる、そんな傾向があれば危険だ。(関西)



※新制度の検証について、今回の昇進制度では大卒社員と高卒社員との合格数の格差が顕著に表れ、公平感ほど遠い。今後もしらなる検証をして、よりよい制度となるよう提言していく。

ユニオンは真実を組合員に伝えよ！